

Back Number

本論文は

世界経済評論 2024 年 9/10 月号

(2024 年 9 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%
送料無料
OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン販売

成熟社会の発展論 ：日本経済再浮揚戦略

名古屋商科大学ビジネススクール教授

原田 泰



〔編著者〕

トラン・ヴァン・トゥ (Trần Văn Thọ)

早稲田大学名誉教授

苅込俊二 (かりこみ しゅんじ)

帝京大学経済学部准教授

〔発行〕文眞堂，2024年4月

〔判型〕A5判，260頁

〔定価〕本体3200円＋税

日本経済の停滞が議論されるようになって久しい。失われた30年という言葉もある。本書は、主として経済発展論やアジア経済論を専門とする研究者が中心になって、日本経済の停滞を分析したものである。本書の最大の価値は、特に投資に焦点を合わせた、停滞からの再浮揚に資する多様な提案である。全13章からなるいずれの章も興味深い。紙幅が限られているので、私のまったく個人的な関心を中心に紹介したい。

執筆者の経歴を反映し、豊富な国際比較が本書の価値を高めている。成熟社会の成長力が低下するのはやむを得ないとして、米国やドイツ

のように2～3%成長ではなく、なぜ1%成長なのかという問いは当たり前のようにも聞こえるが、少なからぬ識者が停滞を諦めて受け入れることを勧めるような風潮のある日本では価値あるものだ。停滞の要因として、大胆な投資がなされなかったこと、円高が先行する中で海外直接投資が重視されたことを挙げている。

特に、1990年から2020年までの、日本、アメリカ、ドイツの投資を比較したグラフは驚きである。アメリカは2.4倍、ドイツは1.3倍になっているのに日本は1割も減少している。これでは成長できる訳がない。日本はひたすら投資が不足していた。日本の経済学者やエコノミストがこのことを指摘してこなかったのは失点である。経済理論家は、投資よりも全要素生産性を強調するが、投資がなければ新しい技術も導入できず、生産性が伸びる訳がない。

日本のR&D投資は、投資額を対GDP比で見れば主要国と遜色ない水準にあるが、それが企業収益や成長に結びついていない。90年代までの産業政策には竹内弘高教授などの広範な分析があるが、それ以降の分析が乏しい中で、近年の産業政策の分析は貴重である。多くのことが表面的な議論しかなされていない中で、本書は広範な問題に対して貴重な分析を提供している。非正規労働者に焦点を当てた、格差改善と持続的成長を目指す提言も新鮮である。

以上のように、興味深い分析と提言に満ちているが、一つ疑問を述べさせていただく。本書は、過去のキャッチアップ型から新製品・サービスの創出によるフロントランナー型成長への転換を訴えている。これは通説だと思うが、私は素朴に、世界のフロントランナー製品・サービスを真似れば良いのではないかと思う。ウーバーが日本で導入されないのは、フロントランナー戦略ができていないからではなく、日本の規制がそれを許さないからに過ぎない。現在も、キャッチアップの余地はまだ残っているのではないか。

(はらだ ゆたか)